

平成 30 年度 第 64 回 近畿地区特別支援学校肢体不自由教育研究協議会
公開授業におけるアンケートより

公開授業のアンケート後協力ありがとうございました。いくつか、疑問と質問がございましたので担当教員より回答させていただきましたので、参考にしていただければと思っております。

公開授業名：小 4，5 年 生活 「秋をたのしもう」

・子どもたち一人一人を大切にされる MT，ST の先生方の空気感。とても素敵で、その中で本当に気持ちを開放して学んでいる子どもの様子を見て私自身学ぶことが多く、ほわっと優しい気持ちになりました。私の学校でもコミュニケーションについて日々考えていますが、どのように課題を持ち、ねらいを定め、支援の具体をどうしていくか参考にさせてもらう内容がたくさんありました。コミュニケーションの表出にとらわれがちになりますが何より子どもとのやり取りを楽しみ、一緒に幸せをかんじることを忘れず、また、これから取り組んでいきたいと思えます。(秋を感じる授業、アレンジして工夫してやってみようと思えます) ありがとうございました。

→参観ありがとうございました。本授業を進める中で一人ひとりのコミュニケーション課題を MT と ST が共有しながら授業を進めていく大切さと、日々の授業の中でどのように個別の課題を達成していくかという授業設定の難しさを感じました。アレンジされてどのように実践されたか、ぜひ聞かせていただきたいです。

・後半とスパイダー前半を見学。どちらも子どもたちのうれしそうな表情が印象的でそれだけで授業の良さが分かりました。

→参観ありがとうございました。児童が「秋をたのしんでいる」様子を見ていただけて嬉しいです。

・先生方が皆優しくあたたかい関わりをされていたことが印象的でした。質問・意見をいくつか①重度の子どもも多く、ゆっくり時間をとりながら「感じる」ことを大切にされていたと感じましたがそうであれば、1 コマの授業に教材と音楽が多すぎると感じました。次々にどんどん出てきてついていくのが…。活動に合わせた音楽が 1 コマのうちに何種類も必要でしょうか？子どもは「この活動の時にはこの音楽」とマッチングしていけるのでしょうか？それから、耳元で葉っぱを「カサカサ」させるときに歌で「ヒラヒラ」と歌かけることはどうでしょう？私には違和感がありました。②コミュニケーションにおいて子どもたちの実感・課題は「大人（教師）との 1 対 1 のかわり」であるのだろうと思えますが、子ども同士をつなぐ、子どもが他の子どものことを知ることが授業の中でほとんどなかったことが気になりました。MT が「〇〇ちゃん、やりたい？」と問いかけた時に本人から発声なり表情の変化なりの「答え」があったならば、その場のみんな（大人・子ども）でその瞬間に（最後のまとめの時間でなく）共有したいと思えます。「 ちゃん」「 くん」が今どんなであるのか…知りたいと思いう集団にしたいと、私は考えるのですが。③教材について何の説明もないのはあえて、それぞれが「感じる」ためですか？私だったら「あ、たき火。パチパチ音がしてるね。てをかざすとあったかーい…」などしゃべるなあと。目的があるなら良いのですが、教材は提示するだけでは教材になりえないと思えます。

→参観ありがとうございました。多くのご意見ありがとうございました。主担の思いを答えさせてい

たきます。①指導観にも書かせていただいています、それぞれの児童が得意とする感覚が様々である学年の実態を考慮して多くの教材を使用しました。様々な感覚刺激(音楽や歌も含めた)を通して「秋」という季節感を全身で体験して楽しんでほしい、その気持ちを近くの教師と共感してほしいという思いで授業を組み立てています。この音楽だからこの活動というようなマッチングをねらいにしているわけではありません。また、「ヒラヒラヒラ」は『落ち葉』という曲(作詞作曲：伊藤)の歌詞です。歌にあわせて児童の近くに落ちてきた落ち葉がどんな感触かどんな音がするかを確かめる間(ま)も取っていたつもりです。②ご指摘の通り、この授業では児童同士のつながりの場面はほとんどつくっていません。「教師との1対1の関わり」をメインに授業を組み立てていること、「〇〇さんは…」という言葉がああ空間を楽しんでいる児童にとって必ずしも必要な情報ではないと考えていることがその理由です。積極的に友だちとの関わりを排除しているわけではないので、児童自身が友だちや教師の表情を覗き込んで共感するような働きかけをしている場面はあったかと思います。このときにどのような言葉かけをするか、または言葉をかけないかはその時間の指導目標を考慮するべきで、今回の授業は後者を選択していました。③「教材は提示するだけでは教材になりえない」との事ですが、自分はそのようには考えていません。児童の感情が揺さぶられている時点で教材であると思います。たき火の例では、あの光や音をどのように感じているかは児童それぞれの感じ方であって、そこであえて「パチパチ音がしている」という言葉を投げる必要性を感じません。

・単元のまとめになっていた本時だったこともあってか、指導者の発言や説明は厳選されていて、活動する時間、感じる時間をたっぷりととれていると思いました。プロジェクターでの投影や効果音を使用し、視覚・聴覚を十分につかいて「秋」を味わえてとてもよかったです。先生方の歌で授業展開するのが、ミュージカルのような感じでした。

→参観ありがとうございました。児童が「秋」を体感する上で教員の働きかけが余分な刺激にならないように考えながら授業を展開しました。視覚優位・聴覚優位など児童によって実態が異なるため使用する教材選びを工夫しました。

・先生方が作られる授業の中での「世界観」に子どもたちがどっぷりつかり、様々なアプローチで秋を感じて、さらにそれを表現している様子に感じました。MTとSTとの連携が成り立つ授業。子どもへの投げかけ方、勉強になりました。

→参観ありがとうございました。教室ごと装飾し「異世界」を作ることで、児童の感情表出を引き出しやすいということを、この授業を通してあらためて感じました。

・とても工夫されていて、途中からしか見れずとても残念でしたが、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。子どもたちが五感を思いっきり使い、どの子もすごく良い表情で授業を受けていて、見ているこちら思わず笑顔になるような授業でした。たき火の仕組みが知りたいです！

→参観ありがとうございました。たき火は赤い炎をLEDライトで作成し、プロジェクターで天井にオレンジ色を映すことで教室全体を照らしていました。またオレンジ色の明度を細かく変えて、たき火のチラつきを表現していました。音はスマートフォンアプリ「takibi」から出していました。

・なかなか他の支援学校の授業を見学させていただく機会がないので貴重でした。(小高生活)準備のすごさに感動しました。

→参観ありがとうございました。参考になる部分がありましたら幸いです。